



# 全国私立大学 FD連携フォーラム

News Letter No.11

## C O N T E N T S

P. 2	<b>ご挨拶</b> 代表幹事校・地域担当幹事校【東日本担当】中央大学 地域担当幹事校【西日本担当】同志社大学
P. 3	<b>加盟校一覧</b> <b>新規加盟校のご紹介</b> 中京大学
P. 4-5	<b>2016年度前半期活動報告</b> (総会・パネルディスカッション報告)
P. 6	<b>大学インタビュー</b> 関東学院大学
P. 7	<b>FD徒然草 Part 10『グローバル人財育成のためのFD』</b> 東洋大学 FD推進センター長(副学長) 北脇 秀敏
P. 8	<b>入会のご案内／実践的FDプログラムのご案内</b>



▶ 代表幹事校・地域担当幹事校【東日本担当】 中央大学

## 実践を通じて学ぶこと — 代表幹事校の挨拶に代えて —

中央大学 FD推進委員会委員長  
瀧澤 弘和



2016年6月5日開催のJPFF総会において、中央大学が代表幹事校をお引き受けすることとなりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

すでに昨年度のニュースレターにおいて、本学文学部長の都筑が書いた通り、本学にはFDを所管するセンターのような組織がなく、全学として設置する「中央大学FD推進委員会」が首頭をとって、各学部・研究科のFD活動の情報共有を行いつつ、その歩みを推進する体制をとっています。

実は、一昨年度にFD推進委員会の委員長を拝命した私自身、FD活動とは無縁のように感じてきた一教員にすぎませんでした。しかし、自分自身が学内のFD活動を推進する側に立つなかで、自ら実践してみなければならぬと思い、委員会の主催で開催したFD・SD講演会で教えていただいた「ルーブリック」や「アクティブ・ラーニング」といった手法を自らの授業で実践してみました。その過程で実に多くのことを学び、自分の授業だけでなく、学部や大学全体の授業のあり方についていろいろと考えるようになり、FDに対す

る意識がまったく変わりました。もちろん、授業を受ける学生の側の反応も大変好いものでした。

私の問題意識は、どのようにしたら私自身が経験したFDの有用性をより多くの教員に伝え、FD活動への主体性を引き出すことができるのかということにあります。もちろん、そのプロセスでは、教員だけでなく職員の理解も得て、協力しながら活動を展開していくことが不可欠だと考えています。

本学では、一昨年度以来、教員相互の授業参観を導入するとともに、FD・SD講演会の実施などを進めていますが、まだまだ多数の教員の主体的参加を得ているとは言えない状況です。そのため、幹事校としての仕事をしっかりと進めながら、JPFFの会員校の方々との交流の中で学び、他校の取り組みや雰囲気をつかむにいかんして学内へと持ち込んでいくのかという意識を持ちつつ歩みを進めていくことになるとは思いますが、今後ともご支援・ご協力の程どうぞ宜しくお願いいたします。



▶ 地域担当幹事校【西日本担当】 同志社大学

## 地域担当幹事校就任のご挨拶

同志社大学 学習支援・教育開発センター所長  
大島 佳代子



この度、JPFF西日本地域の地域担当幹事校を仰せつかることになりました同志社大学の学習支援・教育開発センター所長の島大佳代子と申します。

同志社大学では私が所長を務める学習支援・教育開発センターが、全学のFD活動を取り仕切る組織となっておりますが、FDや高等教育の専門家がセンター所長に着任するのではなく、様々なバックグラウンドを持った教員が交代で指名されます。

私は法学（憲法）が専門で4月に着任したばかりですが、これまで、FDセンターは教育効果の美名の下に、煩わしいアンケート類を数多く実施する困ったアンケート屋さんとして冷ややかに見ていたところ、自分が実行の当事者になってしまひ戸惑っております。

さて、2008年のFD義務化からかなりの時間が経過し、本

学におけるFDの各活動も、良い意味でも悪い意味でも拡散傾向にあります。例えば、当センターが取り扱うFD関連業務には、学習支援が含まれ、学習環境の運営も入り、学生調査や学習成果を測る教学IRにも目を向け、今年は3つのポリシーの再策定…と業務は錯綜しております。本年度はこれまでのFD活動を振り返る年として、学内のFD事業の見直しを行っております。そのような中で、JPFFの実践的FDプログラム等を活用させていただくなどして、頭の整理を行う過程で、JPFFが、同規模の私立大学が集まり、有用な情報交換と今後の指針を得られる組織として、重要な役割を担っていることを知るところとなりました。2016年度から地域担当幹事校として、他の幹事校や会員の皆様といっしょに勉強し、成長していきたい、という姿勢で務めさせていただくつもりです。皆さまのご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 加盟校一覧

代表幹事校	中央大学		
地域担当幹事校	中央大学【東日本担当】	同志社大学【西日本担当】	
事務局校	立命館大学		
幹事校	関西大学	関西学院大学	慶応義塾大学
	創価大学	中央大学	同志社大学
	法政大学	明治大学	立教大学
	立命館大学	龍谷大学	早稲田大学
会員校	愛知大学	青山学院大学	神奈川大学
	関東学院大学	北里大学	九州産業大学
	京都産業大学	甲南大学	神戸学院大学
	國學院大学	国土館大学	芝浦工業大学
	中京大学	中部大学	帝京大学
	東京農業大学	東北学院大学	東洋大学
	日本大学	福岡大学	武庫川女子大学
	名城大学	明星大学	

50音順、全35大学（2016年10月現在）

## 新規加盟校のご紹介

## 中京大学

## ◆全国私立大学FD連携フォーラムへの期待

近年の私立大学を取り巻く課題、例えば、教育の質保証実現に向けてFD活動が果たすべき役割についての情報共有や意見交換を行う等、交流の場としての役割を期待しています。また、当フォーラム参加校間のネットワークを通じて、FDに関する先進的な取り組み事例や工夫等を伺うことで知見を広げ、本学のFD活動推進の企画・立案、そして実行に繋がりたいと考えています。

## ◆学内のFD実践紹介

中京大学教育推進センターは、本学の教育理念及び目的を実現し、教育活動の質向上を果たすことを目的として2015年度に設置され、同時にその審議機関として教育推進センター委員会が組織されました。また、本学が提供する教育を通じて、学生を「自ら考え、行動するしなやかな知識人」へと成長させるため、教育改善に関する組織的活動や教員個々の

取り組みを支援するとともに、学びの環境整備（教育コンテンツや施設・設備等）の施策を、中期的な視点で企画・立案すること、更に学生と教職員の協働により教育・学修の質向上に寄与することをミッションに据え、主として以下のようなFD活動を実施しています。

- ・授業改善のためのアンケート
- ・教員による授業公開（FD参観）
- ・学生FD組織（SearCH）のサポート活動
- ・FDに関する講演会やシンポジウムの開催
- ・年間のFD活動の報告書『FD活動報告』やニュースレター『FD NEWS』の発行



## 総会・パネルディスカッションを振り返って

立命館大学 教育開発推進機構  
土岐 智賀子

2016年度のJPF総会ならびにパネルディスカッションは、6月5日（日）、前年度の春にオープンした立命館大学の大阪いばらきキャンパスにて開催されました。

まず総会では、立命館大学教育・学修支援センター副センター長の安岡高志先生の司会の下で、前年度の活動・決算報告、ならびに2016年度の活動計画とその概要、年間スケジュール、予算等について報告と審議が行われました。今年度の総会では、今後の活動をより活性化するために、幹事校の学校数を変更する可能性があることから、規約の中の「幹事校」について一部改正（規定のあった学校数を文言の中から削除）することが決定されました。このことにより、2008年12月に10大学から開始し、7年余りのうちに会員校が35大学（2016年6月時点）になり、毎年拡大を続けているJPFの、より安定的な運用とさらなる発展が期待されます。そのほか、ホームページを利用状況に応じて適正化していくことが決定され、関連の予算が承認されました。



また、総会では新規に加盟された中京大学教育推進センター長の鈴木崇児先生からご挨拶をいただきました。

総会に引き続いて開催された今年度のパネルディスカッションのテーマは「大学のグローバル化への対応」です。立命館大学教育・学修支援センター長の森岡真史先生によるテーマの趣旨説明ののちに、4つの大学の代表者から報告が行われました。

まず、芝浦工業大学教育イノベーション推進センター特任教授の橘雅彦先生より、2014年度「スーパーグローバル大学創成支援」として採択され展開している「グローバルPBL」の内容と、それを実行し推進するための仕組みとして、学修の質保証のための大学内における「教職学協働」の取組、

ならびに大学外の政府関係機関・産業界・国内の他大学と「国際産学官連携」による人材育成推進の取組「GTIコンソーシアム」、それらを円滑に遂行するためのガバナンス改革について報告がありました。

龍谷大学グローバル教育推進センター事務部長の荒木利雄様からは、国際化・グローバル化戦略プロジェクトの実行過程について報告がありました。目的達成のための第一歩として、国際化ポリシー「龍谷大学 国際化ビジョン2020」の策定をし龍谷大学におけるグローバル人材像を明確に定めたことから、現状分析を踏まえた複数の課題に関する数値目標の設定、推進体制（組織）の整備等が実行されたこと、グローバル戦略を推進するためのプラットフォームとしてのコモンズ「和顔館」の設立とその機能そして、新たに開発されたグローバル人材育成プログラムに至るまで詳細な報告がありました。

続いて創価大学国際教養学部教授で国際部長の小山内優先生から、創立当初から国際交流の伝統があり多くの留学生を受け入れてきた実績から得られた、正規留学生の受入れと学生交流を成功させるポイントとして、日本語教育支援制度（日本語・日本文化教育センター）、生活支援制度（国際学生寮：留学生寮・混住寮）、学習支援制度（英語による授業）ならびにそのための教員支援（日本人教員向けの英語による教育FDの実施）、大学独自の奨学金制度等について説明をしていただきました。

最後に京都産業大学外国語学部教授で教育支援研究開発センター長の和隆先生からは、2012年度「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（Go Global Japan：GGJ）採択事業の取組と採択前から実施されていたグローバル化への取組についてご報告をいただきました。GGJ採択後の取組としては2014年度には理系3学部を設置された「グローバル・サイエンス・コース」と英語学科に設置された「イングリッシュ・キャリア専攻」が連携し、高い専門性とグローバル・コミュニケーションの力を兼ね備えた人材育成に着手したことが紹介されました。またこの事業の推進のために外国語学部の教員と理系の教員間の連携したFD活動や、事務職員の英語力ならびにグローバル・マインド向上の取組、同窓会海外支部を開設し海外で活躍している卒業生を核として海外インターンシップの拡大を図っていること等が報告されました。

4大学の取組をそれぞれの大学に持ち帰り検討したいとお気持ちからだったのでしょうか。パネリストの方々からのご報告後の質疑応答の時間には、フロアーからたくさんの質問が寄せられました。質疑応答ののちに、中央大学経済学部教授でFD推進委員会委員長の瀧澤弘和先生の閉会の挨拶をもって今年度のパネルディスカッションは幕を閉じました。

パネルディスカッションの終了後、キャンパス内の飲食店に場所を移して行われた懇親会は、遠方からお越しになった方も含め多くの方々にご参加いただき、情報交換が行われました。初めて参加される方が多くいらしたにも関わらず、テーブルのあちこちから笑い声が聞こえ、同窓会のような大変和やかな会になりました。

パネルディスカッションにおける森岡先生の趣旨説明、また瀧澤先生の閉会のご挨拶でも示されたように、それぞれの大学が、国際競争力の向上を図った文部科学省の推進事業に関連する取組や、留学生の受入れ・海外への留学生増大のための仕組みづくり、英語によるプログラムや課程等の設置、教職員のダイバーシティ化といったキャンパス内外の国際化の取組を喫緊の課題として抱えています。そして、それぞれの教育現場で、試行錯誤が重ねられているという現状でしょう。会員校の増加からも見て取れるようにJPFFに寄せられる期待は大きいものです。加盟校の成果と課題等の情報共有によって共通課題を克服し、教育の質を高めていこうという同志の連携組織であるJPFFの存在意義は、より一層大きくなっているのではないのでしょうか。



閉会挨拶をされる瀧澤氏  
(中央大学 FD推進委員会委員長)



パネルディスカッションの質疑応答の様様  
左から、土岐氏、大和氏、小山内氏、荒木氏、橋氏

## パネルディスカッション次第

### ◆開会挨拶

森岡 真史氏 (立命館大学 教育・学修支援センター長 国際関係学部教授)

### ◆話題提供

#### 「芝浦工業大学のグローバル化のとりくみ」

橋 雅彦氏 (芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター特任教授)

#### 「龍谷大学におけるグローバル化に向けた取り組み」

荒木 利雄氏 (龍谷大学 グローバル教育推進センター事務部長)

#### 「創価大学のグローバル戦略とその実践」

小山内 優氏 (創価大学 国際部長 国際教養学部教授)

#### 「京都産業大学のグローバル化についての取組—GGJプログラムを中心に—」

大和 隆介氏 (京都産業大学 教育支援研究開発センター長 外国語学部教授)

### ◆パネルディスカッション

コーディネーター：土岐 智賀子氏 (立命館大学 教育開発推進機構嘱託講師)

### ◆閉会挨拶

瀧澤 弘和氏 (中央大学 FD推進委員会委員長 経済学部教授)

▶ 関東学院大学

関東学院大学のFDの取り組み



関東学院大学高等教育研究・開発センター長  
建築・環境学部共通科目教授  
奥 聡一郎

関東学院大学では高等教育に関する調査・研究・提言事業と全学的な教育プログラムおよび教育力向上に関する事業を行うことを目的に、2013年4月に「高等教育研究・開発センター」を開設しました。教学担当副学長のもと、センター長、次長、センター所属の専任教員3名、研究員1名、センター運営の事務職員2名が中心となって学部の枠を超えた学修支援強化につながるFDの取り組みを進めています。具体的には、FD推進部会、SD推進部会、キャリア教育部会、カリキュラム・マップ部会などの作業部会を設け、教育活動を支えるシンクタンクとして企画・提案を積極的に発信しています。主な成果としては、授業改善アンケートの見直し、全学共通科目の「キャリアデザイン科目、地域連携科目、インターンシップ科目」の設置をはじめ、学生を主体的な学びへ誘うためのアクティブラーニングの普及活動などがあげられます。その中でもFDの推進においては、センター所属の専任教員が先頭になって様々なプログラムの企画、立案、実施運営に携わり、継続的な活動を行っているのが特徴です。以下にいくつかの事例を紹介してみます。

まず、年1回の全教職員を対象とした「全学FD・SDフォーラム」では「FDの第1人者に学ぶ」を主眼に、著名な講師を招聘した講演を企画しています。昨年度は『アクティブラーニングの実質化』と題し、講演とその後のワークショップで実践的な教育力を身に付けられるように構成しました。今年度は、『学習成果をどう評価するか』についての講演を企画し、時代のニーズに合った最新の情報提供を心掛けています。

次に、新任専任教職員および希望する教職員を対象に、本学のFD・SD活動の取り組み状況の説明と理解を促す「新任教職員研修会」を4月から10月にかけて4回にわたり数十時間のプログラムで実施しています。内容も建学の理念から本学のカリキュラム上の特徴、少人数のゼミ形式での授業の工夫など身近な話題からFD・SDにつながる仕組みを組み込んでいます。

その他にも年数回、本学の教育上の重点課題について、ワークショップ形式を取り入れたセミナーを開催しています。これまでのテーマのいくつかをあげてみますと、「3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）の策定」、「高等教育機関で働く職員の役割を再考する（SD）」、「外国語による教授法入門」、「高大接続を考える」などFDの喫緊の課題に対応した取り組みを行ってきました。昨年度は、「カリキュラムの可視化（カリキュラム・マップ、フローチャート）」と題したセミナーで、外部講師による他大学の実践例やカリキュラム・マップの作り方の講演と、各学部のメンバーがそれぞれの学部のカリキュラム・マップを作り、評価してもらうというワークショップを実施しました。このセミナーがカリキュラム全体を見直すきっかけとなり、さらに教育内容の精選やループリックの策定など次の課題につながるような副次的な効果が生まれています。（写真）

このような最新のテーマを追い続けることで、本学の抱える教育上の問題が浮き彫りになり、次々と出てくる新しい問題にどのように対応するかが、現在の課題です。大学を活性化させる学生FD、初回授業の実質化、大規模教室での私語やスマホ対策、フィードバックの方策などについては、教職員間の意見交換や実践例の紹介の場を設けていきたいと考えています。また、FDに関して、企業との共同研究も開始しました。今後は、組織的な対応だけでなく、学生主体の授業とは何か、どのようにしたら効果的な授業が行えるか、FD本来の目的に立ち戻り、組織と個人のFDについてバランスよく織り交ぜた講演やワークショップの企画と運営を目指していきたいと考えています。



## グローバル人材育成のためのFD

東洋大学 FD推進センター長（副学長）

北脇 秀敏



### グローバル化への対応としての英語講義の進展

東洋大学ではグローバル化に対応するため、2002年度から一部の大学院で英語を用いて学位を取得できるコースを立ち上げました。少し遅れて学部でも、一部の講義が英語を用いて行われるようになり、2013年度からは各学部で英語で開講される科目を、学部の垣根を越えて全学生が共通で履修・単位修得できる制度SCINE (Study Courses In English) を立ち上げました。さらに2014年度に文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」採択後はSCINEを発展的に解消し、英語で開講される講義で一定以上の単位を取得し、一定の条件を満たした学生にTGL (Toyo Global Leader) の称号を与えると共に、英語で開講される科目数を飛躍的に増やし、2016年度には、学部で開講される科目の7.4%が英語をはじめとする外国語により講義されるようになりました。

### 英語による講義を行う教員に対するFDの必要性の増大

このように急激に講義の使用言語を日本語から英語に切り替えるにあたり、各学部長を始め多くの教員には多大なご支援をいただき、また当該教員には講義準備等でご苦労をかけた。外国語による講義が実施できることという条件で採用された新任教員はともあれ、教員にとって講義の使用言語を切り替えるのは、別の科目を担当するような負担があるかもしれません。また、単に教員の英語能力があるだけでも、英語が不得意な学生にわかりやすく、かつモチベーションを保たせつつ講義することは一朝一夕には行きません。英語による講義が急激に膨張する中で、その質保証に係るFD活動が、東洋大学の喫緊の課題となりました。

### 海外を訪問して思ったこと

見方を変えて海外に目を転じるとどうでしょうか。筆者はODAやNGOが海外で行う技術協力を携わっており、多くの留学生の送り出し国である開発途上国で仕事をする機会に恵まれています。今年の夏季休暇もアフリカ諸国を訪問し、学生リクルートのためなどで大学や高校等を訪問してきました。訪問国はケニア、タンザニア、南アフリカという英語圏でしたが、多くの部族の言語があるため、共通言語である英語での教育が一般的になっており、教育現場では日本人が直面するような語学の壁は感じられませんでした。国境を跨ぐ複雑な部族の棲み分けがある彼らの国々では、日頃の生活そのものがある意味で異文化交流です。学生寮等に日本人学生と留学生とを「混住」させて異文化交流を生み出す努力をしている日本とは、全く違う世界のです。

### ハンデを跳ね返すために

グローバル人材（東洋大学では「財」という字を使っています）を育てる必要性は高いものの、日本という環境の中で異文化や外国語に対する学生の主体的な学修を促すことには、ハンデキャップがあることは否めません。またグローバル人材は、単に英語による講義を履修すれば育つというものではありません。英語で教えるスキルはもちろん、教員の実体験があって初めて教えられることも多いと思います。しかし経験があってもスキルが十分でないためにうまく伝わらないようでは宝の持ち腐れで、本来の教育効果が望めません。東洋大学では教員のスキルをさらに磨くため、英語での講義の経験者や、これから英語による講義を始める初心者など、さまざまな教員のために研修会を開催しています。また、新任教員を対象としたFD研修会における教育方法に関するディスカッションや、各種報告会・講演会における学内外の先進的なFD活動事例の共有など、さまざまな機会を通じて教育改善に資する意見交換や研修を行っています。また学生FDチームがセンター公式の組織として位置づけられ、学生の立場から意見を出し、教職員と三位一体となって教育改善を図る体制も築かれています。これらのFD活動は決して目新しい活動ではないかもしれませんが、使用言語の多様化という大きな変化が大学に押し寄せる中で、他大学に学びつつ、教職員・学生が一丸となって、これからもFD活動を地道に続けて行きたいと思います。



英語で授業を行うためのFD研修会



新任教員FD研修会

## 入会のご案内



全国私立大学FD連携フォーラムは、全国の中規模以上(学生数8,000名以上)の私立大学が連携し、全国の高等教育の質の向上を目指し、活動しています。本フォーラムでは、高等教育の質の向上に資するため、加盟校間での情報共有や意見交換を促進しています。

ウェブサイトでは取り組みの概要や、加盟校のFD活動についてご紹介しております。詳しくは下記ページをご覧ください。

URL: <http://www.fd-forum.org/fd-forum/>

入会を希望される場合には、ウェブサイト「入会のご案内」から「入会届」をダウンロードの上、事務局まで郵送、メール、FAXでお送り下さい。

※フォーラム運営に係る費用は、会員校の年会費で賄っております。

(年会費:5万円(2016年10月現在))

※入会に関するご質問がございましたら、事務局までお問い合わせください。

## 実践的FDプログラムのご案内

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブ・ラーニングを実践する能力を修得する研修プログラムです。

本プログラムは、教員の4つのアカデミック・プラクティス(教育、研究、社会貢献、管理運営)に対して、

- ① 教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義
- ② 授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ
- ③ 個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーション

から構成されています。

私立大学には、クラス規模の大きさ、教員の持ちコマ数の多さ、学生の学力と学習意欲の多様性など、多くの困難な教育条件が存在します。たとえば、各大学では、新任教員研修において本プログラムを利用することを通して、大学教員に求められる教育力量と職能を育成し、大学教育の質を保証することが可能となります。

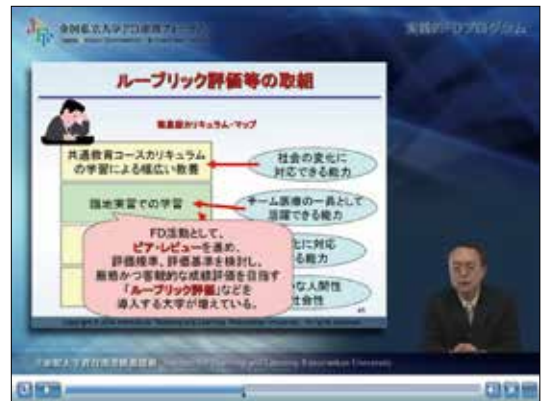
各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義(オンデマンド)や講座(ワークショップ)等を選択し、様々なプログラムを作ることが出来ます。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

JPFJ会員校

[http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd\\_application.html](http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html)

JPFJ非会員校

[http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/fd\\_p/fd\\_program.html](http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/fd_p/fd_program.html)



### 利用申込について

利用期間は1年間となります。(5月利用開始、翌年3月末終了)

上記のウェブサイトより「利用申込書」をダウンロードし、事務局へお送り下さい。

利用申込は随時受け付けておりますが、手続きのため、利用いただけるまでに約2週間かかります。

事務局校

立命館大学 (事務局:教育・学修支援センター 担当部署:教務課)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8310 FAX:075-465-8311 e-mail:fd71cer@st.ritsumei.ac.jp